



^ 5
6592



八五
6592

俳諧發句題葉集冬之部



廿六編

十月

十月の人のまことさうの月おき

八の

十月やうれ本の中のまのま

控堂

十月や孫のうへまて銀のま

律大

十月や浪うららかに萩小家

子丑

十月やまきこまおのいせはら

波人

持ちやねも老ゆく非を月

廿六

91-1734

功冬 生海嵐千の浦人よせらふ方 玉屑
くろきやさひおしめて芒草の 画能

みまきやあつくりの雪やうら 南六
うらうらやさこの初のおとよ タニ 素曉

小美 ひくくくと遠ぬきうきよ小美が 成美
まもて鶺鴒の舞うさる小くる知 白雄

山おの朝日にほひふふとるこま 月峯
壬生よさるまへくとして小美が 黄卷

佐えのや小美の抱ふ葉の煙りよ 千尺

法衣たる小まらよ葉のこころのな 千巻 俚雪

おまらぬ葉や小まの銘のる イセ 桂島

仲のくく嘆きよ小まこつ那 梶の

おく葉の横ふきやさる小まこつ那 井三
まを拾ふ程つゝ木のまふちりる 紀鳳

さらさら時をひらいて帰さる 西木
たつたかよさるや小まのちん衣 下巻 雨夕

非送 ひとのいづたさうり 佐友 越中

牛

角とすく若きものも牛と云ふ
及ひたると名はあしおよ牛と云ふ

古寺

牛

旅と云ふ牛のうしろも時をいふ

升六

牛

牛のぬまおとらひのうらひのき

大江

牛

牛の乳のぬまおとらひのき

鳥明

牛

牛のうしろおとらひのき

文里

牛

牛のうしろおとらひのき

若翁

牛

牛のうしろおとらひのき

素直

猪

山里もあつたをとりたるを猪と云ふ

折山

猪

うしろのぬまおとらひのき

佐老翁

猪

猪のうしろおとらひのき

覃分

猪

猪のうしろおとらひのき

示掌

猪

猪のうしろおとらひのき

若翁

猪

猪のうしろおとらひのき

白雄

猪

猪のうしろおとらひのき

嵐山

猪

猪のうしろおとらひのき

兼男

猪

猪のうしろおとらひのき

稻井

猪

猪のうしろおとらひのき

三紀

猪

猪のうしろおとらひのき

芦堂

猪

猪のうしろおとらひのき

字舟

芭蕉忌 せしし〜のひひ〜やおし〜れ 二柳

おし〜る色〜の像を〜取らん 岳轆

芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜
芭蕉忌の事〜

月〜
月〜
月〜
月〜
月〜
月〜
月〜
月〜
月〜
月〜

後令儀や下〜支極も又百年 楠芽

雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜
雇人もおる〜

十取 押〜
押〜
押〜
押〜
押〜
押〜
押〜
押〜
押〜
押〜

おり〜
おり〜
おり〜
おり〜
おり〜
おり〜
おり〜
おり〜
おり〜
おり〜

うは〜
うは〜
うは〜
うは〜
うは〜
うは〜
うは〜
うは〜
うは〜
うは〜

正雄

旧國

我雪

松源

素吼

瑞馬

升六

芦涯

月村

曉臺

折文拂

仍〜ぬ人も拂〜入り

物時る

ま〜

ま〜

ま〜

ま〜

ま〜

ま〜

考の山歌は人あせらるる此
まの時の国かたはれしとあま
和しるも雪のや為人違ひ
志くも葉の枝くさくし物時の
枝あて大根まきしとくられ
ゆくも青きるし物時の
系とくしと此原はと物時の
物時の国とてあまき物時の
まの山歌の国とてあまき物時の
松風はまの国とてあまき物時の

羅城
重厚
二柳
素麦
卯七
松源
固岳
青有
志縣
一休

時雨

わのまは雨さしとて物時の
梅くし梅やかたしとくられ
馬うらとて雨田は人あま物時の
秋うらとて又ほくられ物
中まのまきとて物時の
まの秋まの一枚活し物時の
ひの秋まの一枚活し物時の
白うらとて物時の
まの秋まの一枚活し物時の
まの秋まの一枚活し物時の

野角
黄志
井眉
士朗
吳江
白喬
其章
之風
左言
曉彦

本栴風

あつじの中を落き朽木が
あつじや度々の末のそと山
風うさむいふもいふ山極の芽
本栴平空本あつじのそと
あつじのねよ後もそと井は月
風や人鳥と回家は月お
あつじや売よあつじのそと
本あつじの本城よ日るあつじ
あつじやあつじあつじ
本あつじよあつじあつじ

聞更
雲帯
田福
亀六
紫曉
騏道
杜栗
若絲
長高
木公

あつじの西よあつじの月お
風やねりひさした東福寺
本栴又隣のあつじ日くれ
本栴りあつじあつじの所
あつじあつじあつじあつじ
あつじあつじの深のあつじ
あつじあつじあつじあつじ
あつじあつじあつじあつじ
あつじあつじあつじあつじ

蚊山
成美
卧央
呂舟
馬阜
空阿
吾長
青有
何来
葉波

おれ

くねくねとて膝のあがりし膝のお

蝶夏

おれ

うもて葉ののりりくさくさおれ

朱唇

おれ

おれのおもむねおれおれおれおれ

三子

おれ

有ぬきとておれおれおれおれ

駿道

おれ

おれの月おれおれおれおれおれ

三千彦

おれ

埋もれよおれおれおれおれおれ

白字

おれ

おれおれ一月おれおれおれおれ

灰鳥

おれ

有ぬきおれおれおれおれおれ

馬肝

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

訃子

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

李味

おれ

菜畑の飼をたつたおれおれおれ

完来

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

大江

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

貞死

おれ

泡盛のおれおれおれおれおれ

唐水

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

貞松

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

馬漕

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

其岳

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

五川

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

十六女

おれ

おれおれおれおれおれおれおれ

成

霜柱

霜柱のさかすかに雪のふりかへり

白雄

麦の穂のれけりし一房と雪のしら

眉山

笑ひのこころのまのこころしお花

東芽

初水

初水の柳の影さく風情なり

升六

まじりてこそお花のこころおはなり

夜兔

後の心さくさる鹽やしらぬなり

花牛

薄氷のさけのむきさしとやお水

風絮

ゆきよさきてこそお花のこころお水

志女

薄氷

薄氷のさけのむきさしとやお水

富葉ヨト

薄氷のさけのむきさしとやお水

如福

氷

薄氷のさけのむきさしとやお水

和鸞

あつとて日くさるるの薄氷なり

吹湖オニハ

山崎のさけのむきさしとやお水

遊不チヤカ

九ひと白田の水さしとや

且々

はつとてさるる薄氷なり

巴水イヨ

お風のさけのむきさしとやお水

雲帯アハ

岸のさけのむきさしとやお水

路求

猪の牙のさけのむきさしとやお水

岸松チハ

はつとてさるる薄氷なり

柔貫

川裁のさけのむきさしとやお水

半輪

雪

お雪の中家鴨出く由くぬきれ川
うつろや人々船の歌くつゆ
お雪や小さくうの雪の音の周
うつろや小さくうの海の果
お雪や小さくうの雪まけ佇山
うつろや船の人乃をきつらし
お雪よりこもるる橋の人
降やんて雪はうつくぬきなり
お雪をさくて歌よけぬ雪の如
人のたつて雪のほこむとほこむ

風紫
沆兮
徐英
蓂栗
蕉里
雪肆
春東
兼明
尺丈
希言

る市や小刺さくつるもさのそ
雪のなかや土ふくつるひんぎ
ゆきつて雪は降さる奥山泉
大なる雪は雪の如くおのほそ
お雪やうつろはゆきつて雪
ちりちりと海はしおの雪
お雪やうつろはゆきつて雪
よき雪やうつろはゆきつて雪
お雪やうつろはゆきつて雪
おのほそつて雪はゆきつて雪

馬瓢
三千彦
士朗
青橋
寸来
春水
作者不知
士峯
葛三
知風

てら月や糸のくさりい井の香
るききふたの隅やと鈴の音を
けのほふ酒やさしやと鈴の雪
おの雪木槿のほふききとさり
まらうこの雪をさしして雪のほ
雪の月と雪の連なる都の那
うふふふふふふふふふふふ
をめらうとさきふふふふふふ
ふらうと人のけりさうと雪の門
所中や雪ぬらうとさきふふふ

百池 青阿 吳楓 鯉千 升六 二瓢 双鳥 宇竹 唐多 壺仙

雪人

終やうして又ほふ雪の火はよ
あくのにおとそとせられ雪のオ
鍋とさして雪の小椀雪の人
雪の人とさうとさきふふふ
雪の人とさうとさきふふふ

朝丸 馬涯 蕪村 宗讚 月居

雪見

ひらうとほふとれり雪見お
おのうとさきふふふふふ
橋よさうとら肉の山のさきふ
白のほふとさきふふふふふ
人雪のほふとさきふふふ

可都里 如毛 後牛 逸邦 吳山

素瓌
 菅鳥
 田鶴
 其標
 李窓
 半輪
 卜中
 黄卷
 若翁
 一步
 吹雪
 淡き花中らなまきさめし夕吹雪
 氣ほやうらたふあふおのる
 吹雪うくしお影のうらさうおれり
 空をまてそみぬ風の吹雪を
 雪まきれ 若翁いよゆく我老ふをまきれ
 葉のま中程はいつくまきれは
 江の中は海月たこよまきれは

春坡
 恭昌
 可昇
 九河
 雙卷
 羅川
 岸松
 井眉
 白雄
 靈沼
 吹雪
 ちさうりのまきれのまきれ
 風のひよまきれのまきれ
 そのまきのまきれ
 舟まきのまきれ
 まきの情月おこるまきれ
 秋まきのひよまきれ
 持松の持りし碎るまきれ
 一輪の標まきのまきれ
 うまきのまきれ
 まきのまきのまきれ

凍

凍やぬ人酔ひほろあのみと
るは膝をぬるもやうは流が

フニ

警喬

鶯のけりきききき凍のく

ナニハ

梨陰

引汐やねよ凍つてうつを見

ナニハ

魯川

冬 構

凍中のうくさやをのまをさ
つむくろ茅子匠寺のみを様

ナニハ

二柳

流風や穂きんをうむき様

ムラサキ

不必

北窓閑

かまきりも夜流るり山の窓

フニゴ

杜由

山の窓閑くうのくくくみか

フニキ

風律

冬 籠

らく向ひ構塔つてききり

雪流の中流く生てきき 籠

フニキ

月居

ききりのりききりひる日てきき

フニキ

白雄

籠むくくかかうく人ききり

フニキ

蚊山

ききりりくこの雀中かききり

フニキ

雲帯

ききりり人きききききり

フニキ

重厚

ききりりりりりりりりりり

フニキ

得生

ききりりりりりりりりりり

フニキ

其成

ねをきききききききききき

フニキ

士朗

籠炊のききききききききき

フニキ

固能

ききりりりりりりりりりり

フニキ

巴耕

茶口切

くさくさ物さのゆきくさくさ
ふりくさくさ木の枝まきくさくさ月
上印やぬ山くさくさ人とくさくさのさくさ
くさくさやくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ

外六
香二
蕪村
大江
長圃
渡牛
無表
重厚
竹三
蚊山

炉開

かきぬんかきぬん根のまきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん

唾王
井眉
建雅
政二
長高
西木
半十
九江
交風
竹外

爐裏

火爐

かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん
かきぬんかきぬんかきぬんかきぬん

竹外

火桶

さし世の我為さふこころの
人のまをて人の帰らぬ相火桶
ふらふも火桶の篇乃まをて
相風よ命ひこころ火をまを
まうしころりや火桶の接り
火桶抱てかこまをて小おけり
ほろまかこころる火桶の
うき人の神集たる火桶
相火桶のまをて人も
天のまをて表る火桶

凡道
葛三
春和
之曲
存義
臥穴
擣室
逸
萩川
金街

子那

さし世の我為さふこころの
相火桶のまをて人も
天のまをて表る火桶
まうしころりや火桶の接り
火桶抱てかこまをて小おけり
ほろまかこころる火桶の
うき人の神集たる火桶
相火桶のまをて人も
天のまをて表る火桶
まうしころりや火桶の接り
火桶抱てかこまをて小おけり
ほろまかこころる火桶の
うき人の神集たる火桶
相火桶のまをて人も
天のまをて表る火桶

其朝
蜂友
星文
喬駟
弁六
斗流
白雄
三千彦
定来
馬

埋火

埋火中しうれまをて
埋火中しうれまをて

馬

摺火

埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて
埋火や我よとちりておのて

白皇
花凌
蜂友
布舟
渡江
依兮
乙二
抑居
作者不知
桃

炭

中つとつたのまじりたる摺火が
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて
摺の火よとちりておのて

普奇
布舟
一透
呉に
蘭聚
閑更
一草
里風
銀獅
倉波

白炭

ふ炭やいしつらるるふの枝
ふ炭よきおねとましくぬこるか
枝炭よきまきまきかひこるまき

柳居

百非

儿山

升六

長鳥

白雄

標堂

佐著知

花縣

普高

炭

炭を圍つて白くして
よきまきや炭を圍むまきおねぬ
炭を電やし塗らぬまきまき

炭

炭を電やし塗らぬまきまき
炭をまきまきのまきまき
まきまきまきまきまき

白雄

標堂

佐著知

花縣

普高

炭

炭を電やし塗らぬまきまき
炭をまきまきのまきまき
まきまきまきまきまき

炭

炭を電やし塗らぬまきまき
炭をまきまきのまきまき
まきまきまきまきまき

五井

松野

不末

芳吹

蜂房

園更

空阿

逮雅

杜凌

秋屋

全表

炭を電やし塗らぬまきまき
炭をまきまきのまきまき
まきまきまきまきまき

蒲志

小おちりりかき川紙つ貫る浦志
紙つらりりるもろくはしき浦志
あつひつあつひるまきと布ぬき
宿の名をぬきと紙つらりる
早ふらりのかきせてくま
よ糸まのひしりまきと布ぬき
そのぬのぬのぬのぬの紙つらり
紙つらりるもろくはしき浦志
居るもろくはしき浦志

無觴 荀大 如福 荻花 一葉 茶枕 あり 羅川 吹湖 麦光

頭巾

紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志
紙つらりるもろくはしき浦志

芦丸 月居 二柳 李冠 汶川 趙島 泰昌 仙真 竿舟 蕪村

綿帽子

紫

紫 是紙つらりるもろくはしき浦志

蕪村

寒

水
澆

う〜いや〜
ふ〜
く〜
ま〜
そ〜
と〜
は〜
大根の〜
火の〜
あ〜

菜二
二柳
白雄
蒼あ
福二
鯉石
そよ
未今
吾洋
黄老

靴

勝

凍
瘡

冬
日

出〜
靴や〜
扱を〜
け〜
旭〜
妻〜
そ〜
あ〜
あ〜
あ〜

佳夕
旧國
古光
如柔
楠芽
升六
巴豊
蕉雨
双鳥

冬の日のおひかり 宿の火の煙る
 冬の月の糸繰る 宿の火の煙る
 出づり 糸繰る 宿の火の煙る
 冬の日の夜の 宿の火の煙る
 櫛の糸繰る 宿の火の煙る
 海は 宿の火の煙る
 冬日和 糸繰る 宿の火の煙る
 降る 宿の火の煙る
 冬夜 宿の火の煙る
 宿の火の煙る

水雲

伏青

長翠

即央

郭史

花縣

二酉

渡牛

月達

鳥明

冬のおや 大根志 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る
 冬の月の 宿の火の煙る

月村

長高

大江

都在

作者知

我備

青馬

山父

呂蛤

祠冠

後のあつしつんかきしあきの月
 澄々として傍らもくもくの月
 山同やまにけりぬをてまの月
 霧の紫よりくまをくもくの月
 松のまのいさむらひのまの月
 海系やまらぬのまの月
 孤啼やまの月海を渡るまの月
 月氷 何れそ月のまの氷るまの月
 舞もゆきまの月まの月
 冬これ 冬これまの月まの月

他々
 吳鶴
 黄卷
 玉屑
 芦九
 坡反
上
 分盟
 晋心
 麦光
 羅山
 蕪村

まいれらるゆきまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 冬田 厚野まの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 冬野 ぬくぬくのまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月
 まいれらるゆきまの月まの月

上
 士朗
 其成
上
 蘭少
 若翁
上
 二柳
上
 如松
上
 以眺
 紫暁
 方明
 武陵

ちのまて 帝ひらりるるる

升六

冬 山

冬の山を来りて傍のやこをたし

若海

猿人の脊よつころるまくのやぬ

田木

冬の山を来りてまきく後身をたり

奇白

麻一匹りてまきく後身をたり

蒲邦

元山や麻の毛をまきくまのり

兔耳

东山まきのまきく後身をたり

渡牛

冬 海

冬の海終日吹てまきくまのり

素風

冬の海はまきくまのり

薰里

冬の海はまきくまのり

溪林

冬 川

冬の川はまきくまのり

儿董

冬の川はまきくまのり

暖来

冬の川はまきくまのり

月川

冬の川はまきくまのり

標堂

冬の川はまきくまのり

呉山

冬 丘

冬の丘はまきくまのり

駝岳

冬の丘はまきくまのり

吾長

冬の丘はまきくまのり

豊実

あ 個 実茂のまきのみちをさへかきつる

紫暁

あのみち平に遊ばしつるをそはせ

騏道

かましくし世川の底平に流るは

此柱

うれては清みちをさへかきつる

方義

あ 枯 みるのちとみ道よ降る時

升六

みるもやよし舟を回さるは桶

自樂

みるれやなもさへかきつる

春藏

みるもやよし霸王樹のまき

舎平

みるれやな売さるは流るは

松兩

みるもやよし松のまき

魚守

枯野

みる日よ角つひり枯野のま

暁看

我をさへかきつる枯野のま

猶穂

みるれやなめやかく枯野の

其成

みるれやなめやかく枯野の

騏道

みるれやなめやかく枯野の

戸口

みるれやなめやかく枯野の

青霞

みるれやなめやかく枯野の

似柳

みるれやなめやかく枯野の

月化

みるれやなめやかく枯野の

成美

みるれやなめやかく枯野の

長之

春潮
 漫々
 女之
 亀遊
 静山
 半輪
 烏月
 李隣
 白雄

春葉
 我神よまぬきし
 春の
 梅雨
 西木
 杜石
 泉有
 吾長
 吾出
 泰夫
 馬平

山系花

山系花の終る乾うぬいとも
うむふふふ一日ももまさりて

瓜坊
干當

山系花を平しえる祢宜の門を

掘居

山系花や系よ終らまう白空

二英

こゝんまの終るて時あめり

長島

枇杷花

ふそのまふさうまひぬりぬ健
枇杷のまふさうまひぬりぬ健

長島

うらむまの養無さうまうてひんむ

左柳

枇杷のまふさうまひぬりぬ健

南六

このまふさうまひぬりぬ健

化語

こゝんまの養無さうまうてひんむ

日赤

園のまふのいよりのまふさうまひぬりぬ健

東渚

松

松のまふさうまひぬりぬ健

西木

松のまふさうまひぬりぬ健

飛川

八

をうらむまの養無さうまうてひんむ

泉有

終

終本のまふさうまひぬりぬ健

巴任

榎

榎本のまふさうまひぬりぬ健

月村

榎本のまふさうまひぬりぬ健

黄花

榎本のまふさうまひぬりぬ健

旧國

冬牡丹

人をうそひをまよふぬまの牡丹

重厚

冬牡丹の香のうらやまのまよひ

芦涯

葉子の匂ひのまよひの冬牡丹

道丸

人よしのぬまのまよひの冬牡丹

仙真

一輪のまよひのまよひの冬牡丹

青牛

傍ひのまよひのまよひの冬牡丹

井眉

寒葉

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

八千里

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

青有

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

踏園

おんまよひのまよひのまよひの冬牡丹

五来

水仙

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

耕舎

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

草雨

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

紫暁

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

丈巴

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

無曲

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

野鶴

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

器水

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

月居

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

自樂

まよひのまよひのまよひの冬牡丹

羅厚

犬莖花

枯桑 けりくさう 桑をいへば 桑の葉をいへば

瓜坊

枯蓮 けりくせん 蓮の葉をいへば 蓮の根をいへば

五龍

枯花 けりくか 花の葉をいへば 花の根をいへば

紫暁

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

無極

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

巴六

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

瓢風

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

如福

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

無表

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

五来

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

霞翁

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

夕佳

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

素釣

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

南昌

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

双鳥

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

白雄

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

烏雲

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

瓜坊

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

可笛

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

素釣

枯草 けりくそう 草の葉をいへば 草の根をいへば

二柳

枯蔓 けりくまん 蔓の葉をいへば 蔓の根をいへば

大根 引後てきくおさう 毎のさう
 大根の土陰さうき 月おさう
 大根のさうも 流さうき 流田山
 さうの片は 青く 大根畑
 本房大根 月のさうき 月おさう
 引抜てるれも 根もさう 大根が
 大根引さうき 月おさう 月おさう
 胡蘿蔔引 胡蘿蔔をさうき 月おさう
 細代 細代大の清さうき 月おさう
 月おさうき 細代さうき

大魯
 木比
 互角
 升六
 南江
 人
 拋李
 白雄
 葆光
 楠芽

蕎麥刈
 生薑堀
 蕪
 蕪引
 大根
 大根
 大根
 大根引
 胡蘿蔔引
 細代

さうの中は 青く 大根畑
 本房大根 月のさうき 月おさう
 引抜てるれも 根もさう 大根が
 大根引さうき 月おさう 月おさう
 胡蘿蔔をさうき 月おさう
 細代大の清さうき 月おさう
 月おさうき 細代さうき

如角
 薑畑
 甘千
 至峯
 作者知
 篁雨
 波江
 芝罘
 夫山
 春嶋

紫漬	氷魚	細代守	瑞馬	自樂
火の焼ぬらうも羅よ小紫漬 あつれてぬく漬もさき月想も	雪のらうりーなを氷魚のらうり あふちの後の漬も中し筆は氷魚	空のらうりくわいらくらう守 けりあつて口のらうりくわいらくらう守 細代守あつてのらうりくわいらくらう守	大江	扇
長高	不毛	瑞馬	自樂	
電海	潮志	白雄	空阿	半輪
茄剛	相巴	鳳渚	士朗	

竹筍	麩	牡蛎	士朗
ふく漬もかろくもあつてのらうり けりあつてのらうりくわいらくらう守	空阿	半輪	相巴
えきまの平し竹筍も漬もあつてのらうり 程細も板のらうりくわいらくらう守	半輪	相巴	鳳渚
けりあつてのらうりくわいらくらう守 けりあつてのらうりくわいらくらう守	相巴	鳳渚	士朗
けりあつてのらうりくわいらくらう守 けりあつてのらうりくわいらくらう守	士朗		

生海氣

海氣をくくやたの盡まらふ旅もあら
破の海氣水けしと動くともくさう
かふの底了とれく海男もま
然の海氣女のひと板まてり
孫勒ちうそれともえく海氣都
ゆくれやぶのれ海氣のまろく
一存もしてとらるれ海氣都
あまの海にまられりありの
あまのまらとらるあま月白し
あまのせしとらとさく破の影のま

生佛
方鳥
五来
唐古
二柳
梅後
班鳩
送月
文上
千影

鷺鷥

おしやあまのまら西日け
あまのせしとらとさく破の影のま
あまの海にまられりありの
あまのまらとらるあま月白し
あまのせしとらとさく破の影のま
あまの海にまられりありの
あまのまらとらるあま月白し
あまのせしとらとさく破の影のま

黄ふ
鳥叟
南来
其成
車蓋
芝桂
花縣
あま

鳴

驚く羽ついでに人さるるあはれ
うたひ裂きしこも成るるあはれ
あはれや流るるあはれいこも衣
わらわやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひさるるあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中

同車
紫暎
銀獅
雲味
自樂
馬涯
雲帶
巴住
如柔
千羅

千鳥

人さるるあはれいこも衣
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中
あはれやうたひしうたひあはれの中

方朔
春宵
壺外
蕪村
風葉
曉臺
月居
一巢
笙渺

鶴

帝らさう海らさうはくまきり
あらうりね風とあさおのり
帰らさうまきりふん川らさう
長流やいふまよきちしうん
さうのおささく等よめらふ
ふら日帝・青ささくさめを
あうくしおのそまき成り
くらうらうねいふふよらさう
海まよはつらうあさ小あけ
さうのまよ乃らう時まらう斤

社朱
羽觴
圃更
一草
章古
双鳥
紫曉
馬羊
梅旭
星府

鶴

帝らさう海らさうはくまきり
あらうりね風とあさおのり
帰らさうまきりふん川らさう
長流やいふまよきちしうん
さうのおささく等よめらふ
ふら日帝・青ささくさめを
あうくしおのそまき成り
くらうらうねいふふよらさう
海まよはつらうあさ小あけ
さうのまよ乃らう時まらう斤

石棠
百堂
紫臺
硯拾
五馬
以隣
鯉白
方壺
長

冬至梅

啼くて遊く言のまをり冬を梅
まを梅さうやいかにし梅の春

月更
二柳

曆賣

ま〜よ遊するし年成曆〜り
曆〜り〜り〜り〜り〜り〜り

白雄
素仙

髮置

髪を置か人も自らに作る髪置
髪を置かし髪置〜り〜り〜り

若為
作者知

袴着

袴を着る袴着〜り〜り〜り
袴を着る袴着〜り〜り〜り

久遠
南極

被初

被り初め〜り〜り〜り〜り
被り初め〜り〜り〜り〜り

馬木
無衰

新嘗會

新嘗會の鶏も〜り〜り〜り
新嘗會の鶏も〜り〜り〜り

木安
木安

神樂

神樂の舞〜り〜り〜り〜り
神樂の舞〜り〜り〜り〜り

一嵐
晋巖

夜神樂

夜神樂の舞〜り〜り〜り〜り
夜神樂の舞〜り〜り〜り〜り

児童
杜石

里神樂

夕暮りの暮りたるよさなり里々々

瑞鳥

籠りののりもすくなく里神樂

西木

ふらふらとて福利抱きり里神樂

竹哉

庭燎

うさ枝のまきのあけろ燎り那

化新

燎をくくぬく紙ふかうりさるれ

斗解

後やぶくきもむおろくし權弁

文足

御火焼

御火焼やしきおろくしれ糸の所

蕪村

御火焼やしきおろくしれ所やう後

春花

御火焼やし埃くくしきし鳴りす

升六

吹草奈

吹草奈しきてぬくくく吹草奈外

里枝

天のくくも吹草奈まうりの嵐外

仙若花

大なるくく雪をふりこのよろく外

雪雲

子奈

ふらふらとてあまきくくゆりまは外

玉剛

ふらふらの嵐ふらふらとてあまきく

女

子燈

花遠て隔くぬくく子燈人

之尺

さつさつとてあまきくくゆりまは外

西木

北奈

花遠て隔くぬくく北奈人

都曉

道神奈

道神奈しきとてあまきくくゆりまは

奇劇

御奈

御奈しきとてあまきくくゆりまは

櫻若

あまきくゆりまはの吹草奈しきとて

麦雨

鶯鳥

いささかよみよみいささかよみいささかよみ

紫曉

鶯鳥の身は水まじり苔のこ

詩鴻

空也心

空也心し先き海の松よりま

月村

空也心し先き海の松よりま

渡牛

疎致

一糸をひくくもなる中し許さ

間山

おのしろうもささき人許さ

讚風

はそよよをさつともまは許さ

大江

ねむりのまじりゆらげ許さ

黄谷

許すこれまよのこらおら

雪堂

許すこれまよのこらおら

北谷

いささかの時いらんもら

燦窓

許すこれおらさくもは

壺伯

許すこれおらさくもは

瑞馬

茶のうらりふらさくもは

其成

坂本は鶯のまじり中し大

鈍桂

肩こぬよはゆらぐまの

麦里

縁博よのまじりゆらぐま

不無

秋のまじりゆらぐまの

圃瑞

うらりまじりゆらぐまの

蕉里

秋のまじりゆらぐまの

空阿

大師講

御七衆

顔見世

納豆汁 けりまろ味も馴るる納豆汁

古音

その納豆おまきや納豆汁

白嶺

河豚 飯登ぬうううて母ははなう

重厚

飯のなふのく〜乳はゆ〜

如水

き入ては豚の揚とる女房ま

律車

飯登ひ〜おのるをやちや山

二柳

飯汁 飯汁のこまは活〜居る葦ま

蕪村

ね風の湯をえ〜やぬ〜汁

田木

むつ〜た人扱ひぬ〜汁

青牛

飯汁や飯のこまは活〜居る

作善知

飯賣 飯うらのちるめて居る飯たま

馬来

乾鞋 〜〜〜鞋や〜き〜

蕪村

乾さるや〜〜人のお

車蓋

ゆ〜〜〜鞋を〜

寸来

か〜〜〜鞋を〜

方竹

鯽 鯽の漁〜母は

里蜂

培鯽の〜〜

示掌

ま〜〜人〜

松居

あ〜〜〜

紫曉

毎〜〜人〜

秋卜

杜父魚

杜父魚の傍々もあつたのよちねたり

佳男

杜父魚やうらまゝうらまゝうらまゝ牛下り

柔連

鮫鱈

鮫鱈やしな層の鮫とらけ

巢兆

廉賣

廉賣うらまゝやうらまゝうらまゝうらまゝ

魚眼

藥食

業平ら男うらまゝうらまゝうらまゝ

友國

うらまゝうらまゝ牛下りうらまゝうらまゝ

羅川

うらまゝうらまゝは嫌ひうらまゝうらまゝ

魯牛

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

重厚

猪吟うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

月溪

猪と吟うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

ノ一

鶏卵酒

鶏卵酒はうらまゝうらまゝうらまゝ

蓬宇

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

吾崔

うらまゝうらまゝのうらまゝうらまゝ

春宵

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

井眉

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

李風

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

青雅

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

蘇村

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

自樂

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

芦堂

うらまゝうらまゝうらまゝうらまゝ

雨岳

下毛

貝焼

杉焼

春羹湯

酒

生姜酒

貝焼

海氣揚

海氣揚よりるまのほをまを

等喙

水射

おとく吹物きくくま中水射

仙真

お身引

お身引中たのこつむる候の内

蕪村

息をきいよまや合んお身引

蝸國

るまきんら木のまよお身引

作者不知

お身引やまののまのおらふの

芦丸

お身

お身の眼の遠は木のまらふを

馬光

お身のまらふまらふまらふの類

彦之

まらふまらふまらふまらふのまら

若翁

お身のまらふまらふまらふのまら

石蘭

大尊

大尊はまらふまらふのまら

可水

お身

お身の眼のまらふまらふのまら

廉之

お身のまらふまらふまらふのまら

玉流

お身のまらふまらふまらふのまら

瓦鶏

お身のまらふまらふまらふのまら

雄姿

お身のまらふまらふまらふのまら

作者不知

偷記

ぬまらふまらふまらふのまら

井眉

力草

ちりりりりりりりりりりりりりり

駝岳

西のまらふまらふまらふのまら

兔文

教草

よく見られるまらふまらふのまら

奇例

煖鳥

ぬらめをさすくぬぬの月よ啼

大江

暁やかゝれた眼をさしぬらめをさす

十六 糸候

鶉鳴くかゝる飛々ぬらめをさす

瑞馬

今さら身よ知る今下る煖鳥

二松

そのまゝぬ情をさす煖鳥

眉山

存るまゝ一もよめをさす

十六 一力

さす

松風よさすねらめをさす

尺艾

徳波のねらめをさす

月村

さす若き後利さす帰る

楠芽

我のまゝぬらめをさす

振千

さすの風よさすぬらめをさす

九年 東菴

十二月

師走

こまごまや後かゝるぬらめをさす

逮雅

かゝるまゝぬらめをさす

無表

ぬらめをさすぬらめをさす

瑞馬

乙子朝日

朝りやこまをさすぬらめをさす

不命

臘

八

乙のそらもつてたけひかり

魯牛

臘ハヤシクもかじりし山の麓

路聖

臘ハヤシクもかじりし山を

几秋

粥やふんばさる八口の叙述にさる

蜂友

臘ハヤシクもかじりし山を

文鯉

俳名會

仏名ヤシクもかじりし山を

蝶夏

仏名ヤシクもかじりし山を

有光

仏名ヤシクもかじりし山を

鈍蛙

記居りし山を

鴛雪

車始

人の世に生れし車始

有慶

寒

しらぬのふりし山を

瑞馬

しらぬのふりし山を

黃花

しらぬのふりし山を

徒遊

寒内

しらぬのふりし山を

巴住

しらぬのふりし山を

玉屑

寒雨

しらぬのふりし山を

章古

しらぬのふりし山を

物裁

しらぬのふりし山を

春紫

しらぬのふりし山を

卧央

空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや
 空のしほりや

素礫
 紫暁
 不斎
 石蘭
 經市
 丈水
 千影
 許魯
 蟻城
 白雄

寒の
 寒の
 寒の
 寒の
 寒の
 寒の
 寒の
 寒の
 寒の
 寒の

堤鳥
 鬢風
 雅石
 嘯風
 東瓦
 松蒼
 朝風
 葭人
 蜂友

寒垢離 をきつるや おしおふまのきる 井眉
をきつるや かんとりのせきく清く帰りの 蕪村
をきつるや をきつるや 翠實

寒曝 をきつるや をきつるや 其成
をきつるや をきつるや 步雪

寒造 をきつるや をきつるや 子得
をきつるや をきつるや 無衰

寒 をきつるや をきつるや 不存
をきつるや をきつるや 漢水

寒紅粉 をきつるや をきつるや 雪亭
をきつるや をきつるや 升六

寒 をきつるや をきつるや 麦門
をきつるや をきつるや 澧水

寒 をきつるや をきつるや 助二
をきつるや をきつるや 紫暁

早梅 をきつるや をきつるや 蕪村
をきつるや をきつるや 御冬

早梅 をきつるや をきつるや 御冬
をきつるや をきつるや 御冬

早梅 子梅ややい葉むしの枝うり
 梅のけらなきて梅の葉はらり
 荒くてもちかき見たりふれ梅
 笑ふもいらつてもふしやまの梅
 轉のまてえおしりりまの葉
 けの葉葉うりありてまのやを梅
 ひつそりいさぬさうぬふれ葉
 探 梅 梅探る目やし花名の驚くはら
 梅探るまゝてそ白く雪のふに
 獵 梅 獵あやし大日すま梅搦く金下袴
 佛界 大江 五来 眉月 完雨 登卧 止雀 里楓 官氣 黃花

寒椿 獵梅や鞆鼓きくぬる無相府
 日のこらやし葉からまのさる葉
 空梅さくさぬさうり存まのうはら
 朝風や砂まきまをてさる梅
 早梅 早梅やつまのさる葉より
 早梅梅のうらふ小枝より
 ふのまらん唇まきまのさる梅
 鶺鴒 鶺鴒の葉まやのさるふのさる梅
 かさくしの葉ま價たり糸娘
 夜配 牡丹まよはれと家よ衣をり
 源之 南柯 旧圃 自樂 里蜂 雨律 素柳 奇劇 作者翁 友國

ぬる虫のむらあまかり衣配
 衣配 津裳川 伐くくくく
 ちししちやいれきふやき衣配
 ちの葉よりくくくくれれ納
 木の葉もくくくくかやれ納
 りのや流きもくくくくく
 ぬる唐きくくくくぬるきり
 古唐ひき日あつてよはくはし
 梅もく梅もく遠くくく唐
 飛もく唐もくまきさうくく
 我雪

依兮
 露光
 重尊
 竹村
 蓼山
 無諍
 桐似
 紫曉

節ふ
 くらくらな鬼やうくくく
 ちやいれきふやき衣配
 ちの葉よりくくくくれれ納
 木の葉もくくくくかやれ納
 りのや流きもくくくくく
 ぬる唐きくくくくぬるきり
 古唐ひき日あつてよはくはし
 梅もく梅もく遠くくく唐
 飛もく唐もくまきさうくく
 我雪

古夢
 夢必
 及
 巴六
 渡牛
 茶橋
 披雲
 柏舟
 木音
 文彩

おくらの今長とままてあうる
 月波の夏のそとやあうる
 道茶の風を帆よりとまうり
子夏のそとあまきさうとあうる
 元 排 よしとくけつさうりん
 家なきのあまきさうとやけ排
 於 刺 於るにやんぐら鬼はな
 伝山は於るはうと女け
 鶏の尾はかしら排は
 鶏の刺 なるし刺新きりりのり排
 北豆 蛸吏 針六 一柳 波翠 麦雨 杜右 万千 井眉 儿溪

於 賣 鬼はうとままてあうる
 於るにやんぐら鬼はな
 年内春 けいこを排する女けのり
 やうのうらとあまきさうとあうる
 おやちしと女の尾うと女けのり
 夏のそとあまきさうとあうる
 秋見 夏のそとあまきさうとあうる
 羽波の風を帆よりとまうり
 友国

煤拵

ほん儀の拵よまらむるあつた

ハツ

葛波

拵をさすまらむるあつた

五明

天井の煤をさすまらむるあつた

萍之

煤拵をさすまらむるあつた

二蝶

煤拵やむらむらつた

士朗

煤拵をさすまらむるあつた

不傾

煤拵をさすまらむるあつた

久遠

煤拵をさすまらむるあつた

毫弁

煤拵をさすまらむるあつた

若翁

煤拵や拵き下つた

栢井

餅

蘇よつた

喃月

煤拵よつた

金芽

餅拵や拵き下つた

二柳

餅拵や拵き下つた

圃更

餅拵をさすまらむるあつた

自樂

餅拵をさすまらむるあつた

廿雄

餅拵をさすまらむるあつた

箕山

餅拵をさすまらむるあつた

山松

餅拵をさすまらむるあつた

芥あ

餅拵をさすまらむるあつた

巴明

兼好のくさくさいさくや解送

米

洗 米洗ふきやききくもぬぬら

きりきりあひあひしりし米洗

年

太 焦 火のあきぬきの園や年太焦

節

季 候 節季候は積たして端りさり

くしひとよいらとよひむる節季候

節季候のちちよ小義とさうりり

あつ海の夕暮きさうり節季候

節季候やせさうり節季候のおき

焼

等 焼人よさうり遠もさる焼等

馬木

極居

蘭来

寸蘿

一草

金翠

登舸

渡牛

極季

年

市 乾繻を佩とやねらんその市

きり梅又竹しりはるかや女梅

きりしやゆきこの市村おのまお様

この市人かきりざりしの尻

この市かきりこれ合ふ種とて

松

賣 松りのきりやとりのけき所

ねうらうねうらうねうらうね

松の月まふてよまのさうりまお様

松の月まふてよまのさうりまお様

南兄

二柳

有只

井眉

臥央

四春

雪人

秋秋

松路

奇鳥

宵飾

ひよりの俄か浴衣宵飾

仙真

年忌

山子よき入るるきりきり

秋甫

年忌

くきけのよのいもり

大江

年忌

信一のねきく代さ

松居

年忌

年忌とれ土佐節

素丸

年忌

とくき松居の牡丹

升六

年忌

松のよのめり

忌孫

年忌

松中一のいひ

石波

年忌

松一のよのめり

春懐

年忌

年忌松居のいひ

松芭

五十四

懸取

あつたよのめり

半輪

懸取

あつたよのめり

五雲

歳暮

あつたよのめり

秋策

歳暮

あつたよのめり

巴明

歳暮

あつたよのめり

一草

歳暮

あつたよのめり

月居

歳暮

あつたよのめり

自松

歳暮

あつたよのめり

二丁

歳暮

あつたよのめり

仙真

歳暮

あつたよのめり

藍堂

行年
 ち〜のまゝ小傷よ〜
 ち〜のまゝた陰のた〜
 ち〜や人〜
 ち〜やい〜
 ち〜や後〜
 ち〜や花〜
 ち〜や小路の針の〜
 ち〜や世〜
 ち〜やつ〜
 牛雙
 梅友
 白雄
 徐生
 完来
 且麦
 柿嵐
 佳亭
 升六

惜歳

惜歳
 ち〜のまゝ〜
 柳〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 ち〜の〜
 魚眼
 東春
 幸彦
 仁輔
 魯亭
 甫尺
 巴水
 屠龍
 羣平
 其明

春待 木の葉待おやし六田の嬉よふ
奇閑

梅の匂よまを待おのらつら
大阜

春近 海より船行帆よあつてまほ
春昌

美を花水のくくのおま
雲仙

小晦日 小晦日ゆるむらつらよま
魯石

小つらつらつらつらつらつら
無表

大晦日 夜中まらつらつらつら
買山

陰夜 陰夜つらつらつらつら
瑞馬

除夜 除夜つらつらつらつら
尺八

大年 大年つらつらつらつら
享舟

守歳 守歳つらつらつらつら
冬廿六

年羹 年羹つらつらつらつら
白居

雑唯霞 雑唯霞つらつらつらつら
白雄

和布刈 和布刈つらつらつらつら
瑞馬

孤櫃 孤櫃つらつらつらつら
春秋

東雲 東雲つらつらつらつら
白雄

穎布 穎布つらつらつらつら
白雄

穎布 穎布つらつらつらつら
穎布

穎布 穎布つらつらつらつら
穎布

穎布 穎布つらつらつらつら
穎布

穎布 穎布つらつらつらつら
穎布

り年や海に新帯川のたふり 麻文

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly characters within a rectangular border.

長井生

